

（左から）磯部 秀之 氏、藤嶋 崇 氏

豊田油気株式会社

エンジニア支援とユーザーコミュニティを活用し、「非専任の1人RPA担当」で年間約2,000時間を創出

CORPORATE PROFILE

社　名
豊田油気株式会社

事業内容
生産設備向け油圧・
空気圧機器の販売ほか

ウェブサイト
http://www.toyota-yuki.co.jp/

- お話を伺った方 -
豊田油気株式会社
代表取締役社長
藤嶋 崇 氏

総務部 コネクト推進室 主幹（課長）
磯部 秀之 氏

Highlight

- ☑ 社内提案を受け、業務改善の具体策としてRPAを導入
- ☑ RPAテクノロジーズ社によるエンジニア支援を活用し、約10業務に素早く実装
- ☑ ユーザー会「BizRobo! CAMP!!」での事例紹介により客観性を獲得、社内評価も確立

生産設備向け機器の販売・保守を手がける愛知県の豊田油気株式会社は、DX（デジタルトランスフォーメーション）に向けた第一歩となる業務改善・意識改革の具体策としてRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）に着目。2018年にデスクトップ型ツール「BizRobo!　mini」を導入し、営業事務や経理の約10業務をRPA化した。従業員数およそ50人の同社で、対象業務の分析やツール運用を社員1人が兼任で担う体制のもと、ロボット作成はRPAテクノロジーズ株式会社によるエンジニア支援を活用し、素早い導入を実現。年間約2,000時間相当のリソース創出効果を達成し、社内の意識においても当初の狙いである「部署の壁を超えた改善意識」を定着させた。さらにBizRobo!ユーザー会を通じて社外のRPA担当者とも交流し、さらなる推進への活力につなげている。順調な活用拡大を受け、2022年にツールをサーバ型の「BizRobo! Lite+」にアップグレードし、得られた知見を生かした事業化も検討中だ。

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

導入背景 部署間の壁が厚く、改善意識が広がらなかった

全社的な業務変革の契機として RPAに着目

「クルマのまち」として知られる愛知県豊田市に本社を構える豊田油気株式会社は、自動車産業の生産設備向け油圧・空気圧機器や協働ロボットなどを取り扱う、従業員数およそ50人の商社だ。

中でも第1・第2営業部では、それぞれが販売を担う製品のビジネスモデルの違いもあって部署間の壁が厚く、各自の担務に終始しがちだったことから「全部署が連携し、より広い視野で業務を見直す雰囲気に変えたいと考えていました」と、同社代表取締役社長の藤嶋崇氏は振り返る。

第2営業部所属だった磯部秀之氏は「部署を超えたつながりを生み出す具体的な取り組み」として、RPA導入を提案。導入後は全社対象の業務分析のほか、RPA担当を1人で兼務することとなった。さらに2021年にはRPA化向きの業務が第1営業部に多かったこともあり、「コネクト推進室」を新設。同氏が異動し、現在主幹（課長）を務めている。



藤嶋 崇 氏

BizRobo!を選んだ理由 BizRobo!担当者の対応に「中小企業の活用支援に熱意を感じた」

拡張性や導入実績も評価

RPA導入にあたり、同社はデスクトップ型・サーバ型の４製品を検討。イニシャルコストのほか、ロボットの手動実行とスケジュール実行の併用しやすさや、活用拡大時の管理機能、さらに取引先での導入実績などを評価し、RPAテクノロジーズ社が提供するBizRobo! miniの採用を決めた。

ツールの導入検討を主導した磯部氏は「機能面と同等以上に、問い合わせへのレスポンスや、導入・開発支援の充実度を重視していました」と明かす。

「BizRobo!の担当者から感じた熱意が、最大の決め手」だったと磯部氏。また藤嶋氏は「中小規模の組織にとって特にインパクトが大きい業務変革を、まずRPAから始めたいという私たちの思いが伝わり、共にチャレンジできるパートナーだと確信しました」と語る。



（左から）磯部 秀之 氏、藤嶋 崇 氏

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

対象業務 受注処理など11業務をRPA化

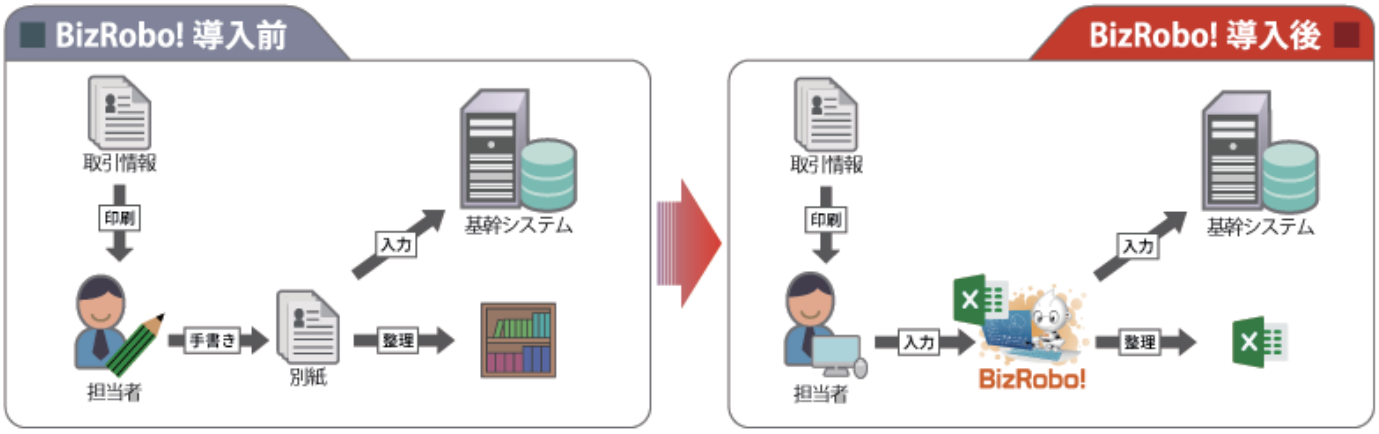
対象選定や実装に自社の知見を生かす

対象業務は、取引先別ながら共通部分の多い受注処理や経理関連の作業から11業務を磯部氏が選定。そのほぼ全てにおいてRPA化を実現した。

RPA化に伴い、人の役割を「確認」と「例外処理」に限定できるよう、作業内容を変更。例えば、複数システムのデータを反映する帳票の作成では、手書きによる追記から、出力前にデータを転記しておく方法へ切り替えた。

社内唯一かつ兼務のRPA担当である磯部氏は、稼働予定の管理や簡易な改修などの運用面に集中。ロボットの作成は、RPAテクノロジーズ社によるオプション・サポートのエンジニア支援を活用している。

「導入目的や組織体制にもよりますが、当社の場合は技術の習得時間を考えると、内製よりも、“餅は餅屋”でプロに依頼するほうが短期間で成果を上げられると考えました。仕様が明確であれば、一通り使えるところまでベンダーの力を借りて開発後、徐々に自力で応用範囲を広げていくのが有利で、実は当社が協働ロボットを販売する際にも同じ方法を推奨しています」（磯部氏）



取引情報を基幹システムに入力する業務

導入効果 年間約2,000時間相当のリソースを創出

部署の壁を超えて増えた「ありがとう」の声

現在は52体のソフトウエアロボットが稼働しており、従来手順との比較で年間約2,000時間相当のリソースを創出。やむなく残業で業務を処理する場面が大幅に減ったほか、今後コロナ禍による自動車の減産が解消した際の業務量予測に基づくと、さらに倍の効果が見込まれている。

導入部署の取り組みを社内で披露し、人事考課に反映させたこともあって、RPA活用への理解者は導入後半年頃を境に増加。推進する磯部氏に「ありがとう」と直接感謝を伝える社員も現れ、「3年近く経った現在は、社内から積極的にRPA化の希望が上がってくるようになった」（同氏）という。



Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

コミュニティについて

「社外のRPA担当者との交流で自信が深まる」

対外発表で得られる客観的評価が、さらなる推進力に

BizRobo!にはユーザー会として、推進担当者向けの「BizRobo! CAMP!!」と、開発者向けの「BizRobo! CAMPUS」という2つの組織があり、それぞれオンライン・オフラインの会合が定期開催されている。

2020年7月にオンライン開催されたBizRobo! CAMP!!に磯部氏はユーザー代表として登壇し、自社の取り組みを紹介。社内においても「RPAの取り組みが社外でも評価されるものだ」との認識が広まり、活用推進に拍車がかかったという。磯部氏は社外との交流機会を持つ意義をこう語る。

「社内での感触に加え、対外的にも発表できる水準の成果だと客観的に認められた形となり、さらなる自信と推進力が得られました。当日の発表に対する反応や、その後の情報交換から得られるものも多く、担当者であればぜひユーザー会を積極活用すべきだと思います」

今後について

さらなる活用拡大を視野にアップグレード

実績を生かしたRPA関連事業も検討

RPAの利便性を実感した現場の要望に応えて実行頻度を高め、運用業務が増したのに伴い、同社は端末単位のRPAであるBizRobo! miniの2台体制から、管理環境を一本化できるサーバ型RPA「BizRobo! Lite+」に移行。さらなる活用拡大の余地を得た。

藤嶋氏は「DXは道半ばではあるものの、テクノロジーで現状の仕事を変えるという"第一段階"は達成できた」と、ここまでの歩みを評価する。

コロナ禍に伴う在宅勤務でも、同社社員は各自のPCからVPN(仮想専用線)経由で本社の端末を遠隔操作し、RPA化した業務を平常どおり継続できた。

これらの成果を踏まえ、磯部氏は「遠隔地からの自動実行を交えた産業用ソリューションの提供、あるいはDXを視野に入れたRPA活用の助言などにもつなげられれば」と、知見を生かした事業化にも意欲を見せている。

現場の声

反発覚悟の時期を経て定着に成功

推進担当者に大切なのは「自身の目標実現」

今回私は、導入当初は「経営層の承認が得られれば、現場の理解者は当面不要」と割り切り、個別の心情をあえて考慮に入れずにRPA活用推進を始めました。

全ての業務は、いつか見直すべきもの。最初は慣れないツールも、便利と分かれば必ず受け入れられます。多少負担を感じた時期もありましたが、一定の反発は想定内。定着は思いのほか早く、改善を実感した社内の雰囲気も明るくなりました。

「自身の価値を高めるために、企業人として組織にあらゆる価値を提供する」という思いで私はRPA担当に志願しましたが、これがもし「社命だから」という受け身の姿勢だったら、もっと辛かったはず。少しでも多くのRPA担当者が、自身の目標実現のために機会を生かせることを願っています。（磯部氏）

OPEN
オープン株式会社は日本国内で長年にわたりRPA事業を展開し、業界・地域を問わずその活用ノウハウを提供しています。「ヒトの進化を共創する」ことをミッションに掲げ、BizRobo!をはじめとするRPA関連製品・サービスの提供により、個性が思う存分活かされ、楽しむ人たちが躍動する未来の実現に向かっていきます。
オープン株式会社　〒105-0003 東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル3F　BizRobo!事務局：Tel 03-6778-0864
もっと情報を知りたい方は
BizRobo! 検索
https://rpa-technologies.com
お問い合わせ:
※記載している内容は取材日時点の情報です。
Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.